



国際ロータリー 第2690地区 第10グループ

玉野ロータリークラブ

■2009～2010年度 役員■
 会 長 東川 清隆
 会長エレクト 岸本 昌法
 幹 事 槌田 正則
 副 幹 事 緋田 秀雄
 S A A 松尾 洋二
 副SAA 近藤 勇進

2009～2010年度
 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

週報

■事務局/〒706-0011 玉野市宇野1-11-1
 TEL. 0863-33-2228 FAX. 0863-33-2225
 ホームページ <http://www.tamano.or.jp/rotary>
 E-mail tamanorc@tamano.or.jp

■例会場/瀬戸大橋カントリークラブ
 〒706-0153 玉野市滝1640-1
 TEL. 0863-71-4500 FAX. 0863-71-4509

■例会日/毎週金曜日(12:30～13:30)

No.2045	
2月5日例会 プログラム	「ポーランドのシンボルになる動物」 Filip Gradek 様
2月12日例会 プログラム	「識字率向上月間に困んで」 社会奉仕委員会 三宅孝治委員長
2月5日のメニュー	・豚肉の生姜焼き・小鉢・ご飯・お味噌汁・お漬物・コーヒー

前回(1月29日)例会記録

出席報告	会員総数	33名	出席者数	24名	欠席者数	9名	出席率	72.73%	前回補正率	75.76%
	前回補正者	緋田君								
	欠席者	石川君 宮原君 仲田君 小野君 白石君 谷口君 上原君 安江君 山田(次)君								

会長挨拶

皆様今日は。明後日の1月31日は岡山丸の内ロータリークラブと共催のIMです。1月27日に最終打合せを行ってまいりました。IMの全体像と皆様にご協力をお願いする事柄の説明をさせていただきます。全員一致でIMを成功させましょう。

幹事報告

- 葛尾ガバナー事務所より①ガバナー月信の原稿依頼(クラブ自慢)が届いております。②第3ゾーン保健及び飢餓救済支援グループゾーンコーディネーター宮崎茂和様よりの依頼により保健支援としてカンボジアへマラリヤ、デング熱の予防の為に蚊帳を2690地区として寄贈することとなり会員1人当たり1口500円以上の寄付の協力依頼が届いております。③ハイチ共和国大震災義援金協力のお願いが届いております。
- 小林ガバナー・エレクト事務所より①「ロータリー財団国際親善奨学生」募集の案内が届いております。2010～2011年度RI第2690地区青少年交換委員会委員の委嘱状及び承諾書が渡邊正俊君に届いております。③2010～2011年度RI会長テーマは「地域を育み、大陸をつなぐ」と発表された旨サンディエゴよりハガキが届いております。
- (財)ロータリー米山記念奨学会より東川清隆君、藤田尚徳君、松尾洋二君、白石富喜太君に特別寄付金免税申告用領収書が届いておりますのでお渡し致します。
- 他クラブ週報、例会変更通知は回覧させていただきます。

委員会報告

- 岸本副会長：エキヒガシ木工展のご案内。
 日時：平成22年1月29日(金)～2月1日(月)10:00～17:00 場所：駅東創庫 スタジオきとけ

スマイル・ボックス

- 東川君一井上先生、ようこそおいでくださいました。本日卓話よろしくお願ひします。
- 藤田君、山田(孝)君一井上先生、ようこそおいでくださいました。卓話ありがとうございます。
- 松尾君一井上先生、お久しぶりです。本日はよろしく。

プログラム 「海外医療ボランティア活動について」 井上 康君

私が海外での医療ボランティア活動を始めるきっかけとなったのは、杉田眼科の杉田達先生(東京都)と藤田眼科の藤田善史先生(徳島県)のお誘いによるものでした。杉田先生は、お父様が旧満鉄病院(現・大蓮大学附属中山病院)に勤務されていたというきっかけで、現在も大蓮大学附属中山病院での医療ボランティア活動を行っておられます。藤田先生は日本ミャンマー交流協会を通してミャンマーにて医療ボランティア活動を行っておられます。

大蓮大学附属中山病院は大理石張りの大変な豪華な建物で、当時の満州鉄道の発展ぶりをうかがわせるものでした。手術室は改装を施されており、医療用の機材も最新のものが用意されています。

一方、ミャンマーでの活動の拠点となるヤンゴン眼科病院とマンダレー眼科病院はかなり古い建物で、冷房も完備されていません。電力の供給も不安定で手術中に何度も停電が起こります。活動するためには、日本から大量の医療機器、薬品および小型発電機などを持ち込まなければなりません。

実際の活動は現地の眼科医に眼科手術の指導を行うことと、眼科手術のデモンストレーションを行うことです。慣れない環境下での活動は体力的にも精神的にも厳しいものですが、手術後の患者さんやご家族の方の感謝の言葉（ミャンマー語は理解できませんが?）、笑顔、握手攻撃でリフレッシュされます。ボランティア活動の醍醐味はすべてココにあると言っても過言ではありません。

両国とも第2次世界大戦中は日本の支配下にあったことで、「反日感情が強く、受け入れてもらえるのか？」など思っていました。まったくそんなことは無く親日的な人々が大多数でした。それぞれの土地や文化に触れ、なかなか味わうことのできない貴重な体験をさせていただきました。私の体力・気力が続く限りはこの海外医療ボランティア活動は続けていきたいと思えます。



大蓮大学附属中山病院の受付



マンダレー眼科病院の病室